

自ら課題を探し、解決していこうとする子どもの育成

学力向上推進員	委員
筒井 亜耶	1年主任 吉田和佳子 4年主任 大和史代 5年 大西佑次郎 特別支援学級 新治美樹 専科 渡邊昌代 専科 美保美津江 特別支援指導員 山道勇輝

竹内 照記

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習に真面目に取り組むことができ、基礎的・基本的な知識・技能の習得について、漢字は一定の定着が見られる。 ●基礎学力の定着について個人差がある。語彙力が低く、問題を読み取る力や文章を書く力が弱い。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。 ・身に付けた知識・技能を他の学習や生活で活用することができる。 ・語彙数が増え、正しい言葉で文章を読んだり書いたりできる。	・朝のドリルや小テストに継続的に取り組む。 ・デジタル教材・ICT 機器を積極的に活用し理解を深める。 ・辞書を活用したり、別の言葉に言い換えたりして語彙を増やし、文章を書く力や読解力を高める活動を行う。 ・読書活動の充実を図る。	・読み書き、計算など基礎的な学習を朝のドリルで継続して行う。 ・読書活動の充実を図るため、班でおすすめの本を紹介したり、読み聞かせをするなどの活動を行う。 ・学力の個人差が大きいので、T・T や個別指導を強化して基礎的な学力の定着を図る		

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○音読や教室での発表、集会での発表など、与えられた場や手順が分かる場では、意欲的に発表しようとする児童が多い。 ●教師や友達の話をしっかりと聞き、それをふまえて自分の考えや思いを根拠を明らかにして表現することに課題がある。	・課題に対して友達と考えを出し合ったり比べたりする活動を通して自分の思いや考えを深めることができる。 ・相手や目的に応じて、根拠を明らかにしながら自分の考えを進んで表現することができる。	・話型や作文の書き方等の見本を示し、根拠を明らかにして自分の考えを表現する力を育てる。 ・グループ活動を生かし、異学年間での発表会を取り入れる。 ・ホワイトボードや ICT 機器を効果的に活用した話し合い活動を充実させる。	・子供同士で問題の解き方を教えあう活動を行い、言葉で伝え、説明する機会を増やす。 ・文章の要約、読解したことを発表させ、誰かに伝える伝えるために書く等、課題設定の仕方を工夫する。		

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習や生活のきまりを守って学校生活を送ることができる児童が多い。家庭学習にも真面目に取り組む児童が多い。 ●進んで課題をみつけ、追求しようとする意欲が乏しい。家庭での主体的学習や読書習慣の定着に個人差がある。	・進んで学習に取り組む、学ぶ楽しさや喜びを感じることができ、自信をもつことができる。 ・読書の楽しさを知り、進んでさまざまなジャンルの本に親しんだり周りの人に知らせたりすることができる。	・社会情勢に配慮しつつ、実施可能な体験活動を取り入れる。 ・情報教育を推進し、学年に応じて ICT 機器を自ら活用できるよう支援する。 ・家庭学習があまり行っていない家庭への働きかけを推進する。 ・自分の考えを話すための根拠となる資料作りや調べ方を習得できるような活動を行う。	・体験活動があまり行えないので、新聞など社会の出来事に興味・関心を持ち、自ら調べようとする意欲を高める。 ・家庭学習への取り組みは個人差が大きい。 ・タブレットの操作に慣れつつあるので、発達段階に応じた活用をさらに進める。		

令和3年度 学力向上ロードマップ

4月

